

週日の説教

金 大烈 神父 2008年9月2日(火)

《私によって相手が幸せになるように》

日本語の表現の中でよく使う言葉に【ありのまま】というものがあります。【ありのまま】とはどういう意味でしょうか。

私たちは、口では【ありのまま】と言いながら実際は【ありのまま】見ていないことが多いです。たとえば、人を見るとき、その人が着ている服や、その人の年齢、頭のよさなどを見て、ありのまま見ていると思ってしまいがちです。「ありのまま言って素晴らしい人」「ありのまま言って頭のよくない人」などとよく言います。しかし、それは間違いです。【ありのまま】というのは、神様が人間に与えてくださったもの、そのままを言います。

人間が人間を差別する原因は、【ありのまま】見ることができないからです。犬や猫も【ありのまま】を見るならば、彼らは生き物であり、生命のあるものとなります。それが分からなければ、私たちはいつまでも、本当のありのままを見ることができません。ファリサイ派の人々や律法学者達の一番大きな間違い(人間を区別すること)の原因は、ありのまま見ることができなかったことです。私たちに、「山は山である」、「水は水である」、「川は川である」、「これは生き物で、これは生命のないものである」ということが、ありのまま理解できれば、この世に差別は生じないと思います。

それでも、人と人との関わりや関係は難しいことがたくさんあります。何年間も一緒に夫婦生活をしていても相手を理解できないことはたくさんありますね。【ありのまま】見ることの中には、神様のみむねもあれば、まことの愛もある、憎しみもある、善も悪もあります。悪そのものに対しても、ありのまま見ることができれば、その悪について行かないように頑張ることができます。善もありのまま見ることができれば、私たちは善を本当に愛するようになると思います。しかし、ありのままを見ることができないために、悪について行ってしまったり、善を行わなかったり、神様のみ旨につまずいて倒れてしまったりするのです。

私たちには限界があります。死ぬまで間違いを犯しながら生きるかもしれません。しかし、大切なことは、「イエス様の導きによりありのままを見ることができるよう、そして見るだけでなく、その通りに行くことができるように導いてください」と願うことです。そうすれば、間違えても正しい道に戻って来ることができると思います。

今日の福音(ルカ 4:31-37)では、イエス様は悪霊に取り付かれた人から悪霊を追い出しました。人々は、その力がどこから来たものなのか、何によるものなのか、といろいろ疑いの目で見ます。【ありのまま】ならば、その人が悪霊を追い出して人を救った姿に、「素晴らしい」と感じるはずですが、「彼はどこから来たのか」、「彼は大工の息子ではないか」などと別の目で見えてしまい、せっかくの素晴らしい奇跡を見なくなっています。「ある人が救われた」という事実だけをありのままに見ることができれば、実際の素晴らしいことを見逃す愚かさを避けることができるのではないのでしょうか。

皆様は、家族、兄弟や夫婦や親子などの相手をいつもどのような目で見ていますか？自分勝手に自分のものにしようと考えていませんか？いつも、相手から何か得ようとはばかり考えていないのでしょうか？『私によって相手が幸せにならなくてはならない』という思いをどのくらい持っていますか？それを考えながらこのミサを捧げましょう。

ありがとうございました。